

三重大学 人文学部

法律経済学科

「協同組合論」

特殊
講義



木村 敬明／三重県労働者福祉協議会専務理事

労働者福祉と協同組合

第12回（1月9日）：受講49名（受講生43名・聴講&スタッフ6名）

労働者福祉協議会は労働者自主福祉運動を推進している。労働運動の原点は弱者の協同でよりよい暮らしをつくってきたことである。福祉事業団体の利用推進を方針に掲げる労働組合が減少してきた。忘れられつつある歴史を危惧する。設立当時に立ち返り労働組合と福祉事業団体がともに運動する主体であるという自覚を呼び起こすことが大事であり、それが組合員の利用につながる。

【講義の主なポイント】

- ・日本での労働組合活動の始まりは1886年に両宮製糸工場での女性労働者によるストライキからである。その後、日本で最初の労働組合「期成会」が1897年に結成され労働組合が広がった。
- ・資本主義経済の弊害是正や庶民の安定した暮らしを目的に産業組合法が制定された。各地に産業組合が設立され、これが農協や漁協、信用金庫、信用協同組合の母体となったのである。
- ・1945年に労働組合法が制定された。いち早く活動を始めたのが日本協同組合同盟であり、賀川豊彦を中心に各地で生協がつくられていった。
- ・中央労福協は、生活物資を共同調達するために設立された。創業の精神は、「福祉はひとつ」である。労働者自主福祉事業は、組合員および会員に最大の奉仕をすることを目的とし営利を目的としていない。これが企業との違いである。
- ・労働金庫は、中小企業者や農民など資力の弱い者が組合員となり、相互に資金融通を図る相互扶助的な組合金融機関として設立された。
- ・こくみん共済coopは、労働者の手で共済をとの願いから全国共済団体連絡会議が設置されたことに始まる。新潟地震では全国の労働組合が連帯の力で掛金収入を上回る見舞金給付をおこない労働者共済事業の社会的価値を得た。
- ・労働者の住宅問題は、戦後復興期から高度経済成長期に至るまで一貫して深刻な社会問題であった。労働者福祉運動は労働金庫の発展と共に進められ定着してきたが、住宅生協の運動も同様の経過を歩んだ。
- ・労働運動がめざす連帯社会とは、いい時も悪い時も支え合う、お互いの違いを認め合い、他人との多少の煩わしい関係も受け入れながら、みんなが少しずつ折り合いをつけながら生きていく社会である。

第12回講義…受講生の感想レポート（一部抜粋）

Aさん（2年生）

労働組合や労働銀行などにおいて、それらが設立されることになり、それがよくわかりました。労働会庫のシンボルマークに「知性」「未来」「希望」などの意味が込められているように、今回の講義で紹介されたものの他にも、組合に関する様々なロゴマークに何か意味が含まれているのではないかと感じました。

こみん共済coopなど、組合が設立されるきっかけを知らず、これから組合の在り方を考えたとき、「歴史を忘れた民族は滅ぶ」と講義にあったように、設立の背景にある苦しい状況を忘れることなく、「現在」という時代の変化にも対応していくことが大事なのではないかと感じました。

Bさん（3年生）

戦後と労働法が制定される前にも、苦しい労働状況に耐えかねた労働者の反発や、労働組合をつくる動きがあったのだな、と思いました。数としては少なかったものの、労働者たちの不満や、組合を求めた気持ちが結果として労働組合に繋がったのだと思います。

労働者はその性質上、使用者やその他権力者とは比べて弱い立場におかれやすいことから、労働者の生活を守るためには、労働者自身が団結し自分たちのための協同組合をつくる必要だということが分かりました。

お話しもありましたが、日本の福祉は公的福祉や企業内福祉がありますが、労働者の声をより反映する組織として協同組合のもつ意義は非常に大きいと思います。協同組合の力が全てのニーズを補うことは困難ですが、コーポラティブの署名活動で被災者への支援に関する法制定が実現した事例にもあるように、公的福祉に影響を与える力を持つ存在だと感じました。

資本主義や自己責任論の暴走を抑制できる協同組合は、国や企業には使えない、重要な意味があるからこそ、協同組合が認知され活動の幅が広がっていくと良いなと思います。

Cさん（2年生）

立場。弱い人たちが力を合わせて協力することで実現できることがあると知った。

これから日本国内でもこのように格差は広がっていくと思います。その中で立場。弱い人たちがこれ以上以上に協力していくことが必要だと思いました。立場的に力のある人も弱い人。これと受けやて行くと、協力していかねばならないと思った。

Dさん(2年生)

協同組合は弱者のための組織であると再認識しました。この大嘗まで通る
よけ身の上であるから私は意識したことはありませんが、戦後苦しい
生活の中で協同組合は本当に大切な存在だったと思うました。
「総利第一」という風潮が強い資本主義の中で組合員への最大の奉仕を
目的とする協同組合は数ある組織・団体の中でも本当に珍しく、
特別のよけに感じました。それから協同組合のことをきちんと理解する
人がいなければこの資本主義の世の中ではやっていけないのではなか
らうと思いました。私自身この授業を受けて初めて協同組合とは何たるか
またその重要性とそれ意外と自分の身近にあることを知りました。
これをきっかけに協同組合についてももっと関心をもっていきたいです。

Eさん(3年生)

労働金庫やニクコム共済coop、住宅生協が誕生した経緯について
学ぶことができました。それと単語として目にしたことはありましたが、
実際にどのようなもので、どのような取り組みを行っているのかあまり
理解できていなかったため、詳しく知ることができたことです。
特にニクコム共済coopについて、過去の大規模火災や震災の復興活動
に大きく関わっていることと、今後に備えた法律の成立や改正にまで
関わっていることと知り、とても驚きました。一人一人の力はそんなに
大きいものではないけれど、集まればとても大きな力となること
とても表れていると感じました。自分にできることは何か、他人のために
何をしたらいいのか、改めて考えさせられました。
労働者自主福祉運動という運動について、またそれを構成する三団体に
ついて新しい知識となりました。

Fさん(2年生)

今回の講義では労働組合活動の歴史について詳しく説明してくれたさり、現在の労働組合・協同組合ができるまでの流れを理解することができました。協同組合は地域で相互扶助を行う組織であり、地域にとりかかせない存在だなと思いました。また労働金庫の設立がこくみん共済coopについて、住宅生協についても設立された経緯から説明してくれたさり、それぞれ、労働者のための銀行、労働者の手で共済を行うなど、労働者が活動の中心になるのかなと感じました。またこれらの組織が福祉事業団体として地域で連帯し活動を行うことで支えあえる社会がっくられると感じました。

歴史や様々な思いがっまるる団体であることかとてもよく分かったので、もっと利用が促進されればよいなと思います。

Gさん(2年生)

今回講義を受けて、今日の労働組合が結成した背景に戦前の産業革命の、不当な労働条件でしただけでなく人々が立ち上がり行動を起こしたことが始まりだということを知ることが出来た。生協を作ったため、賀川豊彦を中心に、戦後一早く活動を始めたとはいえ、スウェーデン戦後間もなくの国民の生活が厳しかったことが何より、その人々のために「平和とよりよい生活を求めよう」のスローガンを掲げ、生活の是正を図ったことは本当に素晴らしいことだと思った。こくみん共済、coopが全国に広がった背景として、新潟での大火、地震による災害からの危機を乗り越えたための協力を、労働組合が行ったことが、一因をいふことを知り、このような危機を労働者共済事業が人々に寄り添ってしるし信用を勝ち取り、人々の暮らしを守ることが出来たのも、協同組合が無ければ出来ないことだと思ひ改めし知ることが出来た。

スウェーデンの歴史から、時代を経た過去の労働組合の活躍も忘れがねつつある中、「福祉事業団体利用の推進」を活動方針に掲げた労働組合が減少している。また福祉事業団体を知らない組合会員を増えている今の現状は早急に打破すべきだと重々感じた。再び過去の歴史が、労働組合を正しく解を、理解を深めた必要があった。